



布施だより

《 芸術と文化が溢れる篠西ストリート ～追究が集大成の時～ 》

先週末には、ご多用の中、今年度最後の授業参観にご来校いただき本当にありがとうございました。年度末のこの時期そして卒業式までの3週間を、4月からのスタートに向けて各学年の生徒諸君はそれぞれの思いを胸に日々の生活に向き合おうとしています。

例えば1年生諸君。4月から後輩諸君を新入生として受け入れるための準備をしています。「先輩」と呼ばれるにふさわしい学習への追究に歯を食いしばっているのか。～凡事徹底～当たり前の生活を当たり前前にコントロールしようとしているのか、節度を持って憧れを抱かれるような「先輩」であろうとしているのか。・・・4月6日、新入生を温かく迎えようと全力で取り組んでくれています。



例えば2年生諸君。第49代生徒会を引き継いで第50代生徒会がスタートしています。果たして



「篠西中の顔」としての自覚を学年のひとりひとりの諸君が感じているのか。最上級生になっての不安を抱きつつも、学校全体をより質の高い集団に指向しようとしているのか。地域の皆さんや保護者の皆さんから信頼を得られるような地道な努力を積み上げているのか。・・・「3年生を送る会」「修学旅行」等への準備を丁寧に追究しながら、最高学年

の顔になろうとしてくれています。

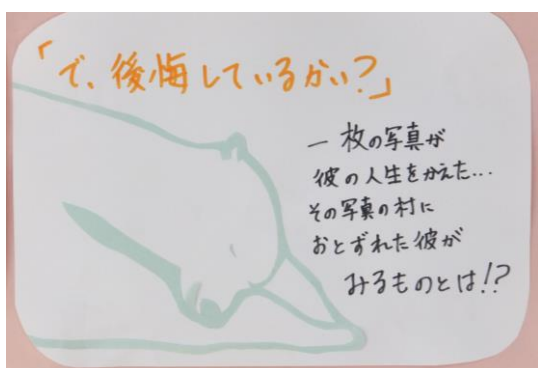
例えば3学年諸君。それぞれが進路選択をし、9年間の義務教育から旅立とうとしています。まだまだ未熟である事は間違いないのだけれど、新しい世界を選択したのは他の誰でもない自分自身なんだという潔さを自覚しているのか。これまでの全てのことに対して感謝の念を謙虚にもって、新しい世界へ飛び込もうとしているのか。・・・自分で考えて行動することを支持される青年への一步を踏み出そうとしてくれています。



そんなひとりひとりの4月からのスタートへ向かう大きな節目を生徒諸君ひとりひとりが過ごしている今です。各学年の廊下には、1年間の追究の集大成である学習作品がアートとしてストリートに溢れています。

1学年美術『絵文字』では、好きな漢字を選び、漢字が持つイメージと絵画的要素を合わせる追究です。漢字と絵画のユニークなコラボレーションが画面一杯にあふれています。2学年『想像画』では、毎日掃いているシューズを主人公にして、異次元な空間を作ったり、物語を作ったりしながら、自由に表現した作品がズラリです。そして3学年「連続の美」では、単純な幾何学模様を16個並べた色彩構成が、錯覚を産み出しそうな様相を醸し出しています。

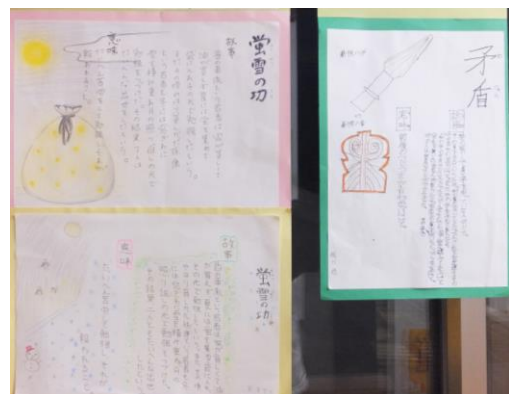
3学年「国語」の最後の単元は「未来へ向かって」です。『アラスカとの出会い ～星野道生 著～』を書店のポップのように惹きつける短い言葉で要約しています。動物写真家として名を馳せながら早世した著者の「人生を変えたアラスカとの出会い」を記した本文は、「人生はからくりで満ちている。日々の暮らしの中で、無数の人々と擦れ違いながら、私たちは出会うことがない。その根源的な悲しみは、



言い換えれば、人と人が出会うかぎりない不思議さに通じている。」と閉じられています。生徒は、著者の人生を変えた人物の「そうか……。私の写真が君の人生を変えてしまったんだね……。で、後悔しているかい？」の刺激

的な言葉の一節を引用し、優しいイラストを添えて、キャッチコピーを創造しています。

1学年「いにしへの心にふれる 今に生きる言葉」では『矛盾』を追究した後で、生徒はそれぞれ好きな故事成語（中国の故事〈エピソード〉に由来する言葉）を選び、イラストを描き、故事と言葉の意味を調べ、その言葉を日常生活で使えるまでにしています。その内の一つ『螢雪の功』があります。（♪螢の光～、窓の雪♪～ですね。）故事は以下の通りです。「晋（しん）の国の車胤（しゃいん）は貧しくて、明かりをともし灯油が買えないので、螢を集め、その光で学問を積む。また、同じ国の孫康（そんこう）は雪の明かりで書物を読んで学問をした。やがて、この二人はともに高い地位を得ることになる。」意味は「大変苦勞して学問にはげみ、それが成功して報われること」ですね。若者はまっすぐな野心をもっている、その実現のためなら苦勞を厭うことなどない……。そんな願いが伝わってくる故事成語です。



生徒たちは精一杯の表現力を駆使して、教科の追究から得た知識や思いを伝えようとしてくれています。そして朝、部活動に行く前、まだ肌寒い廊下で、仲間の力作をじっと見上げている生徒たちがいます。

「体罰に係るアンケート調査」について

過日は、体罰に関わるアンケートへのご回答ありがとうございました。

この度のアンケートでは生徒や保護者の皆様から、教職員の発する言葉や振る舞い、日頃の生徒に対する指導、部活指導等での不適切な言動や指導等について、数件のご指摘をいただきました。ご指摘につきましては、その内容に応じて生徒や保護者の皆様のお気持ちをお聞きすることもしながら、お詫び申し上げるとともに該当職員や職員全体に指導して参りました。

私たち教職員と保護者の皆様との願いは一つ「生徒のより良い成長」にあります。私たち教職員は皆、生徒一人一人の成長を願い、日々の教育活動にあたっております。それらはすべて生徒や保護者の皆様と私たち教職員との信頼関係の上でこそ成り立つものです。深い人権感覚に基づいたお互いを尊重し合えるような関係の中でこそ、信頼関係が成り立つものだという原点に立ち返り、これまで以上に生徒や保護者の皆様との信頼関係を大切にしながら学校教育活動に取り組んでまいります。

この度のアンケートでいただきましたご意見をしっかりと受け止め、生徒や保護者の皆様との信頼関係を築くことを何よりも大切にして参りたいと思います。

今後も篠ノ井西中学校の教育活動へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

篠ノ井西中学校長 西澤道生

《 教育相談の窓口を活用ください 》

以前にもお知らせしていますが、学校内外の生活での相談窓口がいくつかあります。多くの大人がひとりの子どもに関わっていくことで、より良い成長にアプローチしたいと考えています。ご遠慮なさらずご相談ください。

相談内容	担当者	職名等	対象
学校生活や子育ての悩み全般 *相談は随時受け付けます。 担任等にご連絡ください。	戸谷 佳子	スクールカウンセラー	保護者・生徒
発達課題や就学相談について。	中島真由美	特別支援コーディネーター	保護者・生徒
登校支援、校内外中間教室登校に関わって	小山 嘉子	登校支援コーディネーター	保護者・生徒
生活指導全般に関わって	北澤 直樹	生徒指導主事	保護者・生徒
スクールセクハラ・パワハラ等	中山 久貴 押鐘 美幸	教頭 養護教諭	保護者・生徒

『蛍雪の功』～蛍の光、窓の雪♪♪～から連想が膨らみます。

「蛍」のもつはかなさやあっけなさというイメージではなく、やはり生命のもつ力強さと決別の潔さに軍配を上げたくくなります。春3月、卒業の時を迎えている今、「蛍の光」を歌い継いでいる学校は少なくなったのですが、やはり心の奥にはあのメロディーが流れてきます。

そう言えばドラマ「北の国から」で中島朋子さん演じたのは「蛍」でした。そして父親の名は「黒板（くろいた）五郎」、「黒板」は音読みで「こくばん」、もしかしたらあのドラマは『教育』とか『学校』とかを暗に象徴していた作品だったのかも知れません。「黒板」はもがき悩む子ども達をまっすぐに見守る父親・大人、そして巣立ちゆく時に口ずさむ「蛍の光」・・・それは少年から青年へと殻を脱ぎ捨てていこうとし、それまでの親や大人の庇護から訣別し、自身がそこへ飛び込み困難を背負っていこうとする成長譚だったのでは、とも懐かしく思い返しています。

来月19日、本校でも225名の、素敵な成長を遂げた蛍がそれぞれの空に飛び立とうとしています。

